

地域再生計画

1. 地域再生計画の名称

TOGA 国際芸術村を核としたクリエイティブビレッジ構想

2. 地域再生計画の実施主体

南砺市

3. 地域再生計画の区域

南砺市の区域の一部（五箇山地域）

4. 地域再生計画の目標

4-1 地域の概要

(1) 地勢

南砺市は、平成 16 年に城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町と福光町が合併して誕生。富山県の南西部に位置し、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県金沢市と白山市、南部は 1,000 メートルから 1,800 メートル級の山岳を経て岐阜県飛騨市や白川村と隣接している。



面積は 668.86 平方キロメートル(東西約 26 キロメートル、南北約 39 キロメートル)で、そのうち約 8 割が白山国立公園等を含む森林であるほか、岐阜県境に連なる山々

に源を發して庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど、豊かな自然に恵まれている。

平野部は水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がり、春先の強風や台風、冬の雪、夏の暑い日差しを遮るため、「カイニョ」と呼ばれる特有の屋敷林で家屋を守っている。

本計画の区域である「五箇山地域」は、旧平村・上平村・旧利賀村の3つの地域を指し、標高 1,000m を超える山々に囲まれ、面積の9割以上が山林であり、非常に急峻な峡谷や河川、険しい山塊で集落間は遮られている。また、この地域は特別豪雪地帯に指定されており、最大積雪深が3メートルを超えることもある。

(2) 交通アクセス

南砺市は、富山市から約 40 キロメートル、石川県金沢市から約 30 キロメートルの距離にあり、国道 156 号、304 号、471 号を南北軸に、主要地方道等の整備が進められている。

五箇山地域へは、南砺市中心部から車で約 30～40 分、富山空港から車で約 1 時間かかるなど、アクセスは恵まれているとは言い難い状況である。

公共交通機関については、市内を運行する JR 城端線が市民や観光客の交通手段として利用されており、さらに路線バス・市営バスにより市民の日常生活を支えている。近年は、名古屋方面の高速バスの停留所が設置され、また、JR 高岡駅と世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」を直接結ぶ「世界遺産バス」が運行されるなど、観光面での利便性を向上させている。

高速交通網は、北陸自動車道のほか、平成 20 年 7 月に全線開通した東海北陸自動車道により、中京圏との時間・距離が大幅に短縮され、交流人口の更なる増加が見込まれている。また、富山・小松両空港まで約 1 時間でアクセス可能なことから、多彩な産業や観光の発展が期待されている。





(3) 地域資源

①歴史・文化及び観光 ～世界遺産の合掌造り集落と文化芸術のまち～

南砺市の平野部には、まちなみが美しい「越中の小京都・城端」、板画家棟方志功の住居「愛染苑」と棟方氏の作品を展示する「福光美術館」、そして、600年以上の歴史を誇る真宗大谷派の古刹「瑞泉寺」とその門前の古いまちなみから木槌の音が響く「信仰と木彫りの里・井波」などがある。

五箇山地域には、世界文化遺産「五箇山の合掌造り集落」（平成7年登録）が約400年前の姿をそのままに悠久のときを今に伝えており、「麦屋節」、「こきりこ」といった五箇山民謡、報恩講料理などの特徴的な食文化、伝統工芸品の五箇山和紙、世界の演劇人が集う「利賀 SCOT サマー・シーズン」といった多くの観光資源がある。

五箇山地域を訪れる観光客の入込み数は、年間約60万人であり、そのうち宿泊者数は年間約7万人である。

		
<p>世界遺産 五箇山合掌造り集落</p>	<p>五箇山民謡 麦屋節</p>	<p>SCOT サマー・シーズン</p>

②産業 ～伝統工芸と最先端の創造的産業が共存するまち～

南砺市内の産業構造は、平野部と山間部で異なっている。

平野部では、アルミニウム、橋梁・建築建材、工作機械等を中心とした製造業、山間部の五箇山地域では、建設業や観光産業などサービス業の就業割合が高くなっている。

農業は、良質な米の産地であるほか、干柿、里芋、そば、赤かぶ、チューリップ球根などの特産品づくりに取り組んでいる。林業は、五箇山地域の主産業の一つであり、緑資源幹線林道や森林基幹道の整備などによる経営基盤強化に努めている。

商工業は、国の伝統的工芸品に指定されている「五箇山和紙」、「井波彫刻」のほか、安土桃山時代から続く絹織物、そしてプロ野球選手が愛用する木製バットの製造といった地場産業の振興に取り組んでいる。伝統工芸である井波彫刻は、徒弟制度の上に180名もの木彫り職人が狭い地域でともに暮らしながら制作活動を営んでおり、日本一の木彫りの里としても知られている。

特徴的な産業としては、ギネスブック認定の世界一の癒しロボット「パロ」を生み出した企業と製造拠点があり、日本のロボット産業の一翼を担っている。また、地方を拠点として一貫したアニメ制作を行う全国唯一の企業もあり、約 100 名もの若手クリエイターたちが創作活動に取り組んでいる。

4-2 地域の現状と課題及び取組

(1) 現状 ～超高齢化社会の進行と若者の流出～

南砺市の人口は、昭和 20 年代には約 80,000 人の規模であったが、その後減少を続けている。町村合併により平成 16 年度に南砺市が誕生した直後の平成 17 年 10 月の国勢調査では 58,140 人、そして、直近の平成 22 年 10 月の国勢調査では 54,724 人と 5 年間で約 3,400 人（約 6%）減少と市制移行後も人口減少に歯止めがかからない状態であり、平成 26 年 11 月 30 日現在では 53,836 人となっている。

特に、五箇山地域では人口の減少が大きく、昭和 20 年代のピーク時は 11,000 人を超えていたが、平成 12 年度は 3,496 人、平成 17 年度は 2,923 人、平成 22 年度は 2,432 人、そして平成 26 年 11 月 30 日現在では 2,362 人となっている。

また、人口の減少に伴い高齢化の進行も深刻である。内閣府の平成 26 年版高齢者社会白書によると、平成 25 年 10 月 1 日現在の高齢化率（全人口に占める 65 歳以上の割合）は、全国 25.1%、富山県全体 28.7%となっており、南砺市の 32.9%は、同白書の将来推計での日本の 2030 年～2035 年の値であることから、南砺市の高齢化は日本の約 20 年先を進んでいる状態である。さらに五箇山地域では 40%に達しており、住民の 5 人に 2 人は 65 歳という超高齢化社会となっている。

南砺市の人口減少の大きな要因は、進学や就職によって地元を離れた若者たちが戻ってこないことが挙げられる。国勢調査では、平成 12 年度調査での 10 歳代の人口が 6,198 人、その子たちが青年となった平成 22 年度調査での 20 歳代の人口が 4,347 人であり、比較すると約 7 割となっており、10 年間で約 3 割減少していることがわかる。ちなみに、他の年代を見ると、70 歳以上では自然減が理由と思われる数値の変動が目立つものの、それ以外の年代はこの 10 年間でほぼ変動がない状態である。

(2) 課題 ～地域コミュニティ存続の危機と、観光関連産業の衰退化～

南砺市の山間地域で抱えている最大の課題は、若者の減少により、地域コミュニティを維持する力が減少、高齢化し、その存続が危うくなっているということである。

五箇山地域の中心的産業は、民宿・飲食店・土産屋等の観光関連サービス業である。

観光客の入込み客数は、年間 60 万人程度だったが、平成 7 年度の世界遺産登録により平成 8 年度の年間 90 万人を記録、その後、年間 70 万人まで減少するものの、平成 20 年度に東海北陸道が全線開通したことにより年間 80 万人まで持ち直した。

しかし、近年、旅行形態の個人化・少人数化、周遊見物型から体験型観光への変化、

個に対する観光案内の要望といった観光ニーズの変化への対応の遅れや高齢化による担い手不足の問題が深刻化している。

また、五箇山地域が「通過型観光地」になっていることも観光産業の衰退に拍車をかけており、五箇山地域の観光客入込み客数は、平成 25 年度には年間約 60 万人まで減少、そのうち年間宿泊者数は 7 万人と 10%程度に留まっている。この影響は、民宿、飲食業、土産屋の数にも表れており、平成 13 年時点で 92 軒であったものが、平成 25 年現在では 73 軒に減少している。これは、高速道路による交通アクセスが改善したことにより、五箇山地域に立ち寄った後、金沢市や高山市で宿泊するなど、南砺市は宿泊する目的地にはなっていないということが原因と考えられる。

また、観光客が減少することは、土産品や飲食店等の関連産業が伸び悩むことによる地域の働く場の喪失など若い担い手の流出にもつながっており、人材不足による地域の価値の低下を招かないためにも、観光客や時代のニーズにあわせた変革をしていかなければならない。

(3) 取組 ～地域価値の磨き上げによる、交流・滞在型観光の推進～

南砺市は、前述の課題に対応する試みとして、「南砺市山間過疎地域振興条例」を制定し、自然環境を保全する機能や豊かな文化伝統を有する山間地の公益的機能を南砺市民共有の財産として位置づけ、重点的な取組を図るという理念を定めた。

この考え方に基づき、山間部に集積している文化的資源の磨き上げを行うことにより、地域の価値を高めると同時に、「交流」を軸とした滞在型観光を推進している。

① “世界遺産に泊まる” 独自の滞在観光スタイル

南砺市では、ターゲットを絞った雑誌媒体を活用した情報発信にも積極的に取り組んでおり、雑誌「Discover Japan」では、「世界遺産に泊まる」という切り口で、五箇山地域に宿泊する魅力を重点的に紹介した。

人が生活している世界遺産に泊まれるという宿は、世界的にも希少であり、近年、合掌造りに宿泊する外国人観光客の数も増加傾向にある。昔ながらの囲炉裏を囲み、地元の山菜や岩魚の料理や地酒に舌鼓を打ち、家族のような交流を楽しむスタイルは、ホテルや旅館のような快適さはないが、ホンモノの日本の生活文化に触れられる魅力がある。「トリップアドバイザー」等の海外クチコミサイトにおいては、合掌造りの宿は、外国人からも高い評価を得ている。

世界遺産の合掌造りの宿は、担い手の高齢化により減少しつつ、現在は 5 軒しかないが、南砺市の独自の滞在観光のスタイルとして情報発信を行っている。

②40年以上続く、都市農村交流の取組

利賀地域は県内でも最もアクセスが悪い「秘境」であり、典型的な過疎の村であるが、それゆえに伝統的な生活文化も色濃く残っており、都会の子どもや若者との交流も積極的に行ってきた。旧利賀村時代から都市・農山村交流に積極的に取り組んできており、昭和47年に姉妹都市盟約を結んだ武蔵野市からセカンドスクールとして子どもや教員を受け入れ、



また、子ども教育宝仙大学（東京都中野区）からの学生受け入れも昭和50年から続いている。近年では、平成21年から慶応大学の現役学生らを中心とした東京の若者との交流も始まり、年間延べ100人ほどの大学生が利賀を訪問し、ボランティアで地域の祭りやイベントを支えるなど、若いファン層も生まれてきている。

③TOGA 国際芸術村構想

利賀地域には、世界的に活躍する演出家である鈴木忠志氏が率いる、劇団SCOT（Suzuki Company of Toga）の拠点があり、合掌造りの民家を改造した野外劇場で毎年繰り広げられる「SCOTサマー・シーズン」は、海外からも注目される文化芸術の祭典となっている。現在、利賀芸術公園周辺は、大小の劇場や訓練施設が集積する、世界的にも類例の少ない演劇創造活動の実践拠点となっている。

SCOTの活動は、欧米からも、アジアの文化を学び識るための重要なセンターだと見なされるようになってきており、平成25年には「TOGAアジア・アーツ・センター」が設立された。舞台芸術だけでなく、宗教、武道、建築など身体に関わる文化を体験し、研究することができる世界に開かれた教育学習機関を設立し、アジアの大学の学生や教授らとの国際的な教育プログラムの開催や国際会議の開催など、グローバルな展開を行っていくことになった。これにより、アジアの貴重な文化芸術・アートが集まり、発信する世界的な拠点として進化していくことになった。

南砺市としては、TOGA アジア・アーツ・センターを訪れるアジアのVIP、芸術家、アーティスト、芸術を志す学生たちが、中長期で利賀地域に滞在できる環境を整備することで、地域との交流による経済を生み出し、利賀地域をアジアにおける世界の舞台芸術の聖地にするを目指す「TOGA 国際芸術村構想」を打ち立てている。



4-3 目標

上記のように、南砺市の五箇山地域には、世界文化遺産と TOGA 国際芸術村という、

世界に通用する2つの強力なコンテンツがあり、北陸新幹線開業に伴って多くの外国人観光客も呼び込めるチャンスが広がっている。

また、昔ながらの日本の生活文化が現在も息づき、長年の交流の歴史によって培われた、お客様を受け入れるホスピタリティも高いことから、独自の交流滞在型観光を推進していくことが可能であると考えます。

本計画においては、「TOGA 国際芸術村」を核として、アジアのVIP層やアーティストをターゲットに見据えた長期滞在型観光を推進することで、地域の文化資源を最大限に活用した6次産業化を実現し、持続可能で創造的な地域コミュニティの構築を目指す。

将来構想としては、2020年の東京オリンピック開催に向けて、アジアを代表する文化芸術の聖地を目指し、世界の人々が憧れる日本の農山村モデルを構築していく。

本計画の目標値は以下のとおりである。

1) 五箇山地域の総宿泊者数

70,000人(H27) → 80,000人(H32)

2) 五箇山地域への若年層の長期滞在・宿泊者数

※演劇人、大学生や会社員などの地域づくりボランティア、体験ハウス利用者など

100人(H27) → 500人(H32)

3) 「南砺ブランド※」開発商品の売上額

0円(H27) → 50百万円(H32)

※「南砺ブランド」とは、後述するとおり、南砺市の伝統文化や自然の資源を活用し、癒しや健康をコンセプトとした、魅力あふれる商品や土産品である。

5. 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

<TOGA 国際芸術村を核としたクリエイティブビレッジ構想>

美しい山々に抱かれた南砺・利賀の世界の舞台芸術に触れ、地域ならではの食や温泉で体を癒し、里山の自然や文化に触れる体験プログラムにより、心も体も一つになれる“癒しの里”を創造する。

アジアの舞台芸術・アートの拠点となる、「TOGA アジア・アーツ・センター」を核に、世界のVIPクラスも長期滞在できるシンボリックな拠点をつくり、文化芸術・自然・アート・食・伝統・教育等を融合させた6次産業を生み出し、地域に経済循環と雇用を生み出す。

具体的な事業としては、次の3つの事業を柱に展開する。

<事業名>

イ 長期滞在拠点の整備事業

既存施設や空き家をリノベーションすることにより、アジアのVIPや芸術家、大学生らが長期滞在できる拠点を順次整備していく。

ロ 「南砺ブランド」商品の開発

五箇山和紙、絹織物などの伝統文化資源や、野草や薬草などの自然資源を活用し、癒しや健康をコンセプトとした商品を開発し、地域イメージとともにブランディングしていく。

ハ クリエイターズネットワークの構築

首都圏で活躍しているクリエイターとのネットワークを構築し、上記事業や関連事業を連動させながらプロデュースしていく。

5-2 特定政策課題に関する事項

該当なし

5-3 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5-4 その他の事業

5-4-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-4-2 複数事業と密接に関連させて効果を高める独自の取組

イ 長期滞在拠点の整備事業

①独自の取組として実施する事業

事業概要：

「TOGA アジア・アーツ・センター」の設立により、海外VIPを含めた国内外からの誘客が見込まれているが、現状は市内に対応できる滞在施設がないために、宿泊滞在拠点は市外に行かざるを得なかった。

アジアの舞台芸術・アートの教育プログラムについては、文化庁からの補助を得ているが、滞在拠点整備は対象外となっている。

そこで、既存施設も活用しつつ、上質な滞在拠点を設立することによって、通過



型観光から滞在型観光へとシフトしていく。

第一弾としては、利賀地域における公営の温泉宿泊施設である「天竺温泉」をリノベーションし、TOGA国際芸術村のシンボリックな滞在拠点として整備する。

天然山菜や地野菜、川魚、ジビエ肉などの山の食材を、美しくスタイリングして提供する上質な飲食空間をつくり、日帰り入浴に訪れる地元の人やアーティストらとの食を通じた交流が生まれる賑わい拠点を目指す。

宿泊施設については、ベッドルームを13部屋導入し、海外からのゲストも快適に滞在できるように整備していく。



また、従来から地元で行っている「体験プログラム」についても、ブラッシュアップしながら宿泊者に提供していく。山での山菜採りや農業体験、「瞑想の郷」でのヨガや太極拳など、「心と体が一つになる癒し」を提供し、アジアの身体表現が集結するTOGA国際芸術村ならではの長期滞在の楽しさを提供していく。

第二弾としては、利賀百瀬地域にある空き家のリノベーションへと展開し、アーティストが長期滞在をして稽古に励み、地域の人々との交流等が行える長期滞在拠点を整備していく。

事業主体：

南砺市を想定

事業期間：

平成27年度から平成31年度までの5年間を予定

平成27年度と平成28年度で、天竺温泉のリノベーションを段階的に行う。平成28年以降に空き家のリノベーションへと順次展開していく。リノベーション後も、通年での宿泊客が確保できるように、施設のプロモーションを進めていく。

②独自の取組と密接に連携して実施する事業

事業概要：

南砺市で20年以上にわたり続けられてきた国際的文化的芸術事業の成果をさらに発展させ、市民が共有し、市民の文化芸術活動への自発的参加を促し創造の喜びに浸ることができる環境づくりと豊かな国際感覚を持った人材育成、そして元気で魅力的なまちづくりを進める。具体的な活動内容は次のとおりである。

・国際舞台芸術活動

20年以上にわたり続けてきた日中韓が共同して新たな文化を発信することの重要性について、文化芸術のシンポジウムと気鋭の演劇人による討論会や、欧米やアジアの演劇人のための専門人材育成としてのワークショップを実施する。

・ワールドミュージック

ワールドミュージックを市全体へ広げるため、観客や聴衆者、参加者等の掘り起こしを目的として公演等を実施する。また、国内外のアーティストが合宿し、音楽と文化のアプローチを共通にしてネットワーク公演と音源の国内外への発信、市民楽団のスキルアップを行う。

・アニメ文化による地域振興事業

南砺市オリジナルアニメーションを活かし、アニメに出演した南砺市観光大使を通じて南砺市の魅力を発信するなどし、新たな南砺市ファンの獲得につなげる。

事業主体：

南砺市を想定

国の補助制度：

文化庁所管の文化芸術創造発信イニシアチブを活用（平成 26 年度）

文化庁所管の文化芸術グローバル化推進事業の活用を想定

事業期間：

平成 27 年度を予定

事業概要：

世界的にも有名な演出家である鈴木忠志氏が、昭和 51 年に利賀地域へ活動拠点を移して以来行ってきた演劇分野での先進的な取り組みの成果の上に、アジア諸国との共同制作や共同開催による演劇祭を充実させ、南砺市が舞台芸術のアジア拠点となるような事業を展開する。

また、地域の青少年が、トップレベルの舞台芸術作品や人材育成プログラムに参加できる環境を整え、未来の担い手と若い観客を創り出す。

これらにより劇場が中心となり、過疎化が進む地域の行政や商工会、観光協会などと連携し、地域資源（大自然や山の幸など）も利用した地域活性化を進める。

事業主体：

富山県・南砺市・公益財団法人富山県文化振興財団を想定

国の補助制度：

文化庁所管の優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業を活用
（平成 23 年度から平成 24 年度）

文化庁所管の劇場・音楽堂等活性化事業（活動別支援事業）を活用

事業期間：

平成 25 年度から平成 27 年度の 3 年間で予定

ロ 南砺ブランドの開発

①独自の取組として実施する事業

事業概要：

これまで、伝統工芸である五箇山和紙・絹織物・井波彫刻については、個別に総務省等の補助を得て商品開発等の取組を行ってきたが、それぞれが単独の取組であった。

豊かな里山の自然と手仕事によって継承されてきた伝統工芸や食文化など、合理化・効率化が進む中で見失われつつある大切なものが、南砺市には息づいている。これらのブランドイメージとともに、南砺市ならではの和紙・絹等の工芸のみならず、野草・薬草・食等の素材を使ったヘルスケア商品を中心に、「南砺ブランド」の商品とサービスを開発し、お客様に提供する。

TOGA国際芸術村に滞在される海外のVIPや芸術家をターゲットとして、野草や薬草等を活用したスキンケアやボディケア商品等のアメニティグッズをはじめ、毎日の生活に潤いを与える食品や生活雑貨、ギフト商品に至るまで、企画開発・生産・流通までをトータルでプロデュースしていく。

心と体の健康・癒しを売るためには、その効果が認められる科学的根拠に加え、デザイン、マーケティングの戦略まで、総合的なブランディングが必要である。これまで、伝統工芸品や食品等、それぞれの分野において商品開発を行ってきたが、明確なコンセプトと戦略をもとに、一体となって商品開発・ブランディングを行うのは初めての試みである。

商品開発に当たっては、後述するクリエイターのネットワークも活用したプロジェクトチームを結成し、地元の生産者、デザイン会社、首都圏バイヤー、首都圏の媒体をはじめ、富山大学や金沢大学の和漢薬研究室や、慶応義塾大学のマーケティング研究室等の研究機関、富山県内の製薬メーカー等の専門家とのコラボレーションを図っていく。

商品の生産と流通においては、地域の元気な高齢者の活用、首都圏からの若者等の研究と教育の場、企業の社会貢献等、社会的な視点も入れた独自の生産流通販売システムを構築していく。

五箇山地域の究極の資源は、「良と量の水」「山地と植物」「積雪と冷熱」「人に蓄積したノウハウ」である。買い手だけでなく、作り手も含めて心と体が健康になる、幸せの循環システムを構築していく。

事業主体：

利賀地域ふるさと推進協議会を想定

※「利賀地域ふるさと推進協議会」とは、南砺市利賀地域の活性化を進めていくために、地域住民で組織された団体である。構成委員は、利賀地域のふるさと財団、自治振興会、地域審議会、観光協会、商工会の役員、民間事業者のほか、アドバイザーとして民間コンサルタント、行政職員である。

事業期間：

平成27年度から平成31年度までの5年を予定

平成27年度の天竺温泉リノベーションに合わせて、プロトタイプとなる商品をリリースし、テストマーケティングを行う。その評価に基づき、平成28年度以降に本格的に商品販売を随時行っていく。薬草等の栽培については、研究開発・マーケティング結果に基づいて随時展開していく。

②独自の取組と密接に連携して実施する事業**・越中伝統工芸の最高峰「井波彫刻」と「五箇山和紙」の匠の技の伝承と新伝統工芸品創出事業****事業概要：**

若手の担い手に向けた伝統工芸伝承講習会の開催や、これまでにない新しいデザインの募集を通して出てきたアイデア等により新商品開発や試作品制作を行い、既存の秀作も含めて展示販売会を開催するなど首都圏の消費者へアピールするとともに、海外での販売戦略を検討するため講演会を開催した。

事業主体：

南砺市

国の補助制度：

総務省の過疎地域等自立活性化推進事業を活用

事業期間：

平成 24 年度

・「越中の小京都」に受け継がれる城端織物の海外展開・創出事業**事業概要：**

地元の子どもたちや織物に興味を持つ大学生を対象に、機織体験や伝統講習会を開催するなどして城端織物における後継者の育成を図るとともに、メーカーやデザイナーの協働による新ブランド「JOHANAS」を設立し、海外進出を見据えた新商品開発に取り組んだ。

事業主体：

南砺市

国の補助制度：

総務省の過疎地域等自立活性化推進事業を活用

事業期間：

平成 25 年度

・世界遺産・菅沼合掌造り集落プラットフォーム事業

事業概要：

「生きた世界遺産」を守るため、合掌造り集落ならではの観光産業、「合掌産業」の創出と「合掌産業」維持のプラットフォームづくりを行う。

・「知」の拠点整備事業

観光施設「五箇山合掌の里」と世界遺産「菅沼合掌造り集落」を結ぶ遊歩道や地域内の古道を再生、整備し、イベントを開催し活用を進める。

・「匠」の技伝承事業

合掌造りの伝承や茅葺体験、集落に伝わるわら細工の製造技術の情報整理を通じて、古くから伝わる技を将来の世代に結ぶ。

・「食文化」と「伝統芸能」保存伝承事業

伝統料理や古くから伝わる食文化に関する講習会や五箇山民謡の唄、踊り、囃子の講習会等を通じて、伝統文化を保存し、継承する。

・世界遺産・体験交流発信事業

世界遺産「菅沼合掌造り集落」の魅力をPRするツールの作成や世界遺産体験ツアーの企画・開発・誘客を通じてファンを増やし、ファンクラブの再構築を行う。

事業主体：

南砺市

国の補助制度：

総務省の過疎集落等自立再生対策事業

事業期間：

平成26年度

・日本のものづくりによるシンガポール誘客促進事業（平成27年度実施予定）

事業概要：

富裕層の割合が多いシンガポールの現地旅行エージェントとメディアを日本に招聘し、南砺市のものづくりに焦点を当てて、実際に体験ができる伝統工芸モデルコースを現地視察してもらい、旅行商品へ組み入れてもらえるようアピールする。

また、シンガポールで南砺市を紹介するイベントを開催し、旅行商品を作るための素材（モデルコースの提示、宿泊施設やお土産品の紹介）に関する情報を提供することで、認知度の向上や観光客の誘致、特産品の販路拡大に繋げていく。

事業主体：

南砺市を想定

国の補助制度：

国土交通省所管のビジットジャパン地方連携事業の活用を想定

事業期間：

平成27年度を予定

ハ クリエイターズネットワークの構築

①独自の取組として実施する事業

事業概要：

南砺市には、すぐれた地域資源があるにも関わらず、地域の人ですら認識していない人が多く、外部の視点を入れて地域の魅力を再発見し、南砺市の「価値」を高めていく取組こそが重要である。そのためには、地元のしがらみや従来の発想にとらわれることなく、これまでになかった斬新なアイデアを生み出し、地域の人々や専門家を巻き込みながら実現していける、クリエイティブな人材のネットワークが必要であると考えます。

これまで、総務省の支援による「地域おこし協力隊」により、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、住民の生活支援など「地域協力活動」に従事してもらう取組は行っていたが、真に地域を動かしていくためには、クリエイティブの高い人材が必要とされている。

そのために、まずは南砺市や富山県など地元出身で、首都圏のマスコミ、デザイン会社、映像制作会社、広告代理店等、第一線で活躍しているクリエイティブな人材のネットワークを構築する。ふるさとを出て各分野で活躍しつつ、かつ地元のために貢献したいと考えているクリエイターを核とすることで、強力なネットワークを構築していく。

さらに、雑誌「Discover Japan」や国内外に販売拠点を持つ「BEAMS」等、地域ブランディングに意欲的でクリエイティブな企業とコラボレーションし、国内外のマーケティング視点を入れた商品開発から、媒体露出、販売戦略まで、一貫してプロデュースしていくことで、戦略的にブランディングを進めていく。

また、これらを総合的にプロデュースできる、クリエイティブな人材を地域に滞在させることで、南砺市が推進している様々な事業や、地域の取組等に横串を差し、一体となって南砺の価値を高めていくことができると考える。

事業主体：

南砺市を想定

事業期間：

平成27年度から平成31年度の5年間を予定

②独自の取組と密接に連携して実施する事業

事業概要：

南砺市では、山村集落の維持・活性化を図るため、都市地域から南砺市へ転入して地域おこしに取り組む「地域おこし協力隊」の隊員を委嘱し、3名の隊員が五箇山地域で活動している。隊員は、活動を通して地域との交流を深めるとともに、生活基盤を形成することで活動期間終了後の南砺市での定住を目指している。

五箇山地域以外においても隊員の派遣希望があることから、今後新たに隊員を募集・派遣し、地域力の維持・向上を図っていく。

事業主体：

南砺市を想定

国の補助制度：

総務省所管の地域力の創造・地方の再生事業を活用

事業期間：

平成24年度から実施、今後も継続予定

5-4-3 支援措置によらない独自の取組

○TOGA 国際芸術村構想の推進

・アジアの舞台芸術・アートの教育プログラムの推進

事業概要：

TOGA アジア・アーツ・センターが母体となり、〈アジア身体文化研究所〉を設立する。6つの劇場、稽古場、宿舎、食堂等の施設をさらに充実させ、40年間にわたって築いてきたネットワークを生かして、舞台芸術を中心に、宗教、武道、建築など身体に関わる文化を体験し、研究することができる世界に開かれた教育学習機関とする。

連携協力する予定のアジア各国の芸術機関は、以下のとおりである。

〈中国〉 中国戯劇家協会、中国国立中央戯劇学院、上海市立上海戯劇学院、
中国 BeSeTo 委員会

〈韓国〉 韓国演劇演出者協会、韓国 BeSeTo 委員会、韓国中央大学

〈インド〉 国立音楽・舞踊・演劇アカデミー

〈シンガポール〉 国家芸術評議会

〈台湾〉 国立中正文化中心、国立台北芸術大学

〈インドネシア〉 バリ・プルナティ芸術センター

〈ベトナム〉 国立ハノイ映画・演劇大学、国立ベトナム青年劇場

事業主体：

TOGA アジア・アーツ・センター

事業期間：

平成26年から平成28年までの3年間を予定

○市民参加

・南砺市エコビレッジ構想の推進

事業概要：

南砺市は国内の自治体としては初めて「エコビレッジ」を推進する「南砺市エコビレッジ構想」を策定し、取組んでいる。これまでの物質的・金銭的豊かさと効率性を追求してきた物質文明を見直し、いのちを営々とつなぎ、地域内での資源の循環と地域の自立を目指す環境生命文明への取組である。平成25年に桜ヶ池地区でエコビレッジをモデル事業としてスタートさせ、「木質バイオマス」を活用した再生可能エネルギーの循環をはじめ、農林業、商工観光業との連携、健康福祉、教育、ソーシャルビジネス、懐かしい暮らし方の提唱など、総合的な取組を推進している。桜ヶ池モデルは全市的に広げていく予定であり、将来的にはTOGA国際芸術村も、環境循環型・市民参加型の創造的な地域コミュニティづくりを展開していく。

実施主体：

南砺市

事業期間：

平成25年度から平成34年度までの10年間を予定

○グローバルな交流

・「なんと！幸せのおすそわけ」キャンペーンの推進

事業概要：

南砺市では、平成26年度より交流観光まちづくりを推進し、首都圏を中心とした南砺ファンづくりを進める「なんと！幸せのおすそわけ」キャンペーンを展開している。

人と人、人と自然、人と伝統が絆で結ばれた「結」をコンセプトに、ロゴマークの展開、首都圏でのイベント、雑誌、映像、ウェブ等を活用した情報発信を行っている。

また、首都圏における南砺ファンのコミュニティである「南砺里山倶楽部」を本年11月に発足し、設立記念パーティーには約200名の参加者が銀座に集い、交流を深めた。今後、会員向けのスペシャルなプレミアムツアーや交流イベントを推進するなど、ファンのネットワークづくりを推進していく。

本計画を推進していく上では、里山倶楽部会員向けにTOGA国際芸術村スペシャル滞在ツアーを企画し、一緒に商品開発に取り組む等、ネットワークを活用した様々

な展開を行っていく。

<南砺里山倶楽部 website> www.nanto-yui.jp

事業主体：「なんと！幸せのおすそわけ」キャンペーン実行委員会

※「なんと！幸せのおすそわけ」キャンペーン実行委員会とは、南砺市を訪れるお客様の心に響く情報発信、交流イベント等を行うことにより南砺ファンを増やし、「人が人を呼ぶ、交流観光まちづくり」実現のために設立された団体である。実行委員会は、南砺市観光協会、南砺市商工会及び南砺市の職員をもって構成している。

事業計画：初年度より、南砺里山倶楽部 website を活用した、TOGA 国際芸術村のプロモーション、ファン向けのツアーイベント等を実施する。

・南砺ナイト in シンガポール

事業概要：

富裕層の割合が多く、近隣諸国へのつながりも優れたシンガポールにおいて、旅行や伝統工芸、雑貨、インテリア関係の現地バイヤーを招いて南砺市の食材を使った料理（酒、米など）をふるまい、特産品（伝統工芸品）や旅行ツアーを展示するなど商談機会を開催する。南砺市産の農産加工品や伝統工芸品の販路拡大と観光客の誘致につなげたい。また、現地の富山県人会を通じて富山県関係者との交流を深め、南砺市の応援団を増やし、シンガポールでのPR効果を高めて行く。

実施主体：

南砺市

事業期間：

平成 26 年度

○創造と革新

・クリエイタープラザ構想の推進

事業概要：

アニメや映像等のコンテンツ制作会社、クリエイターを首都圏等から誘致し、制作拠点にしていく「クリエイタープラザ」を、平成27年度に城端地域にオープンする。地方からでも、映像コンテンツビジネスが展開できることを示す、全国初のモデルをつくっていく。本計画の推進に当たり、入居クリエイターとの連携も図り、伝統産業と映像コンテンツの融合も図ることで、新たな価値を創造していく。

実施主体：

南砺市

事業期間：

平成26年度から平成28年度までの3年間を予定

5-5 計画期間

認定の日から平成 32 年 3 月末まで

6 目標の達成状況に係る評価に関する事項

6-1 目標の達成状況に係る評価の手法

目標の KPI 指標である宿泊者数の統計については、南砺市の観光統計調査によって、市内の各宿のデータは毎月調査集計しているため、そのデータを活用する。

当該エリアにおける宿泊者数の推移を、月や宿泊施設ごとに分析をしていき、総宿泊者数として公表する。

また、年間売上額については、南砺市商工課において統計データを収集しているため、そのデータを活用する。

6-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

目標達成状況は、毎年 3 月の年度末に評価し、次年度の目標設定を行う。

	事業名	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
目標 1 総宿泊者数	単位：人 宿泊整備事業	70,000	70,000	72,000	74,500	77,000	80,000
目標 2 若手宿泊者数	単位：人 教育事業	100	100	200	300	400	500
目標 3 年間売上額	単位：百万円 南砺ブランド 商品開発	0	0	10	23	36	50

6-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況に係る評価については、南砺市議会、南砺市ホームページ、情報公開コーナーで公表するとともに、平成 29 年度からスタートする南砺市の次期総合計画の成果指標に組み込み、関連する施策や事業の成果指標と合わせて評価、公表する。

7 構造改革特別区域計画に関する事項

該当なし

8 中心市街地活性化基本計画に関する事項

該当なし

9 産業集積形成等基本計画に関する事項

該当なし